



一昨年の国内大会で負けた経験が 自分を強くしてくれました

36か国・740人の代表選手が一堂に会し、6月にスイスで国際職業訓練競技大会（技能オリンピック）が開催されました。杉浦さんは、スピードとミクロ単位の精度が要求される「機械組み立て」部門に出場。11か国の代表選手と4日間にわたり技を競い合い、100点満点中99・39点という高得点で優勝。見事、金メダルを勝ち取りました。

——初の国際大会出場でしたが、国内大会は会社代表でしたが、国際



ひろ あき
● 杉浦寛章さん（城南町・21歳）

第37回技能オリンピック国際大会「機械組み立て」部門
で金メダルを獲得し、世界ナンバー1に

大会は日本代表。その分、周囲の期待の大きさが伝わってきて、大会の重みを感じました。

——実際に出場してみても感想は？

思ったほど緊張はしませんでした。日ごろの練習どおりにやることだけを考えて臨みました。また、競技中にほかの選手が気軽に声をかけてくるので、気持ちがほぐれました。英語はよくわかりませんでしたけれど（笑）。

——金メダル決定の瞬間の気持ちは？

今までで一番うれしかったかな。技

能訓練を始めて4年目。やり遂げたという充実感でいっぱいになりました。

——毎日続く厳しい訓練。つらくはなかったですか。

始めたころはつらくて、何度もやめようと思いました。しかし、出場2回目の国内大会で負けて2位になったのが悔しくて。今思えば、あのとき負けてよかったと思います。また、訓練のお陰で精神的に強くなったし、自ら考える力もついたと思います。

——この結果を今後どう生かしますか。

訓練で養った「精度感」にさらに磨きをかけていきたい。将来、自分が指揮をとって作った機械で、製品が作られるようになったらうれしいですね。



（株）デンソー
技研センター
ヘッドコーチ
ひろ ひとみ
福井博文さん



教えたことがすぐにできる。飲み込みが早いのが彼のいいところ。技術者の考えを的確に具現化できる、人の気持ちがわかる技能者になってほしいですね。